

相談支援部会 令和6・7年度のまとめ

【令和6年度のアンケート見て注視した部分】

1) 緊急対応・在宅生活の安全確保

- 該当通し番号
 - [10] 一人暮らしの障害者の地域支援（緊急時の対応等）-安否確認に時間を要した事例、関係機関との連携の必要性。
 - [25] クライシスプランの作成・活用状況と、専門職／関係者間の情報共有・連携体制に関する課題と好事例の要望。
-

2) 高齢化・孤立防止と地域ネットワーク

- 該当通し番号
 - [11] 一人暮らしの高齢障害者の見守り・看取りへの不安と在宅継続の希望。
 - [13] 利用者の高齢化に伴う事業運営・支援内容の変化（B型の構造的課題を含む）。
 - [16] 高齢者問題（聞こえない高齢者の孤立・見守りの必要性）。
 - [19] 当事者・ボランティアの高齢化と地域活動の担い手減少。
 - [23] 親の高齢化／親亡き後に備えた、当事者の自己決定尊重と継続的支援・引継ぎの重要性。
-

3) 人材（担い手）不足と支援体制

- 該当通し番号
 - [14] 事業所の担い手不足（定着・継承の難しさ、処遇・住まい支援等の環境整備の必要）。

- [22] メゾ（地域）課題：ヘルパー人材不足の慢性化と、生活介護終了後の時間帯を埋めるサービス創出の必要性。
 - [28] 医療的ケア児に対応できるヘルパー事業所の不足（資格取得での内製化対応の事例あり）。
 - [33] 当事者家族の相談先の認知度の低さ
-

4) 支援の質向上、ICT 化・業務効率化

- 該当通し番号
 - [25] クライシス時に機能する情報共有・連携の仕組み（プランの共通化・見える化）。
 - [12] マイナンバーカード手続きの複雑さ-当事者・家族にとっての負担増（合理的配慮・手続きの簡素化ニーズ）。
 - [29] [30] 学校・特別支援学校と福祉制度情報の橋渡し（在学中から卒業後までの情報提供・連携の不足）。
-

5) 送迎・移動支援の構造的課題

- 該当通し番号
 - [21] 利用者ミクロ課題：通学・土日の移動支援のヘルパーが見つからない、夜間帯のサービス空白。
 - [22] 生活介護の終了時間～帰宅までの“すき間時間”をどう埋めるか（移動支援の時間数不足／人材確保の困難）。
 - [26] 短期入所を使っても日中活動先への移動が難しい（通常ルート外で対応事業所が少ない）。
-

6) 就労選択支援・ピアサポート／ライフステージ移行

- 該当通し番号
 - [15] 精神障害当事者の力の発揮と発言機会（ピアサポーターの育成・活動支援）。

- [4] 就学後の継続的支援（放課後等デイ後の切れ目ない支援の必要性）。
- [29] [30] 在学中から卒業後に使える福祉サービスの見える化・周知（学校側の制度理解不足の指摘を含む）。
- [18] 障害者家族の就労支援（家族の働き続けを支える支給決定と、子の育ちとの両立という視点）。

【2年間の部会のまとめ】

アンケートから出たキーワードを元に相談支援部会で話し合った内容

1. 緊急対応と在宅生活の安全確保
 - 緊急通報システムの必要性（愛の手帳3・4度対象者等）。
 - キーボックスや新宿区の既存支援システム活用の重要性。
2. 高齢化・孤立防止と地域ネットワーク
 - 親亡き後問題、親世代の高齢化の進行。
 - つながりにくい家庭への支援、地域の見守り強化。
3. 人材（担い手）不足と支援体制
 - ヘルパー・相談支援専門員・生活支援員の人材不足。
 - 報酬改定や研修の質に関する課題。
 - 外国籍スタッフや短時間労働者の活用など多様な人材確保策。
4. 支援の質向上、ICT化と業務効率化
 - 事業所間で紙媒体が多く非効率。
 - デジタル化（電子申請、データ管理、LINE相談等）による効率化と課題。
 - デジタル化に伴う研修の質の不均衡や負担増。
5. 送迎・移動支援の構造的課題
 - 1対1送迎の限界、親の高齢化により自力通所困難者が増加。
 - 巡回バス方式、タクシー・Uberなど民間資源活用の提案。
6. 就労選択支援・ピアサポート
 - A型事業所の制度設計上の無理や賃金確保問題。

- ピアスタッフ活用と短時間労働の強みと課題。